

打ち合わせ議事録

場所：尾道市役所 2階会議室

日時：2023/02/15（水） 13:30～

尾道市制作企画係

土井様

しまなみ商工会

柳生様

因島商工会議所

宮地様

尾道商工会議所

高垣様

尾道市制作企画主任  
應治様

尾道青年会議所  
岡

尾道青年会議所  
亀田

尾道市立大  
小川様

尾道青年会議所  
土井

尾道青年会議所  
吉田

空き家再生プロジェクト  
豊田様

ONOMICHI SHARE  
後藤様



## 1. 前回議事録について

コンテスト日時 : 12月10日(日)

場所 : しまなみ交流館(テアトロシェルネ)

### ・ビジコンの社会的意義

ビジネスコンテストが「自分の利益を最大化させたいので資金くれえ」というような対象者であれば理念の統一、チューターお願いできない、といった問題があると思うが？

→「ソーシャルビジネスプランコンテスト」社会課題解決のためのビジネスプランコンテストなので意義の統一はできそう

### ・ビジネスプランとしての「キャラクター性」「独自性」

亀田：コンテストを盛り上げるために特色を出して行きたい

→変な縛りを設けることで変に限定することは避けたほうが良いのでは？

→広い意味で「尾道に根ざす」「尾道のためになる」であれば、問わない方向で良いのでは。

キャラクターとして格好良いものでなければと縛らない方向で

### (例) 福山のビジネスプランコンテスト

上下町にサウナを作りたいというプラン。それが福山に歴史的意義や文化的文脈のためにというわけではなく、まちでの交流が生まれることがあれば良い。

#### ↑福山のプランコンテスト

小林史明氏 共催：JC 福山、一般社団法人福山社中、福山市

尾道市も後援として入っていたが、どういう経緯だったか。

「こうなりたいんだ！」

「こういうことを実現したいんだ！」

どういう未来を目指しているのか、という土台が見えていなければどう仕掛けを作っていくか見えないまま、ただ「やりましたよ」で終わってしまうのでは

亀田：尾道の内外へ。尾道は創業を応援してくれるのだな、という姿が見えればと思うが。

新規創業だけでなく、既存企業の新規事業も応援するような。

この点はもう少し練っていく。



**プランの到達段階：**

一次審査通過者はブラッシュアップし、現実的な収支計画ができるところまで（商工会議所に出せるレベル）を目指し、プレゼンテーションに臨む。

（最優秀賞の方で希望があれば）金融公庫さんに出せる状態にまで伴走する

**[ 最終発表のプレゼンテーション ]**

各チームは以下の内容を発表する。

- ・ 事業内容
- ・ どういう課題にアプローチするか
- ・ 収支計画は整っているのか

**【収支計画の考え方】**

積算をしていく。

喫茶店をやるとして、毎日何人出なのか、何杯出なのか、コストはどれほど掛かるのか  
アルバイトはどれほどつけるのか。結果収支はどうなるか。2年目以降はどのように増えていくのか…  
このように現実問題のプランを積み上げて収支計画をたてる

だが、数字だけがきれいにまとまっているので、内容の本当は面白いのに埋もれてしまっては良くない

## 2. 審査員・メンター候補

### 審査員

今回挙げてもらった候補外に直接的なベンチャーキャピタルで紹介できそうな人は…思いつかない

5名お声がけをするならば

…（どんな人にお声がけするか）ビジネスのソーシャル面？数字面？どのような面での審査員？

**酒井さん、豊田さん、小川先生、神原さん、公庫の支店長**

- ・ 分野的なバランス 農業や福祉など
- ・ 実現可能性 金融機関のかた→公庫の支店長方

まずはこの方向で固めておいて、

5月くらいまでの段階でメンターは固めておきたい

いつでも差し替えが効く人を置いておいてはどうですか（笑）

→いったん應治様にしておく…とか



後藤さま：

上島さま 移住2年目。コンサル的なこともされている。

松枝さま まるか食品で仕事しつつ、イラスト仕事を開始立ち上げ経験。

石崎様 もと NEC で Remon.Lab

大橋さん JICA 海外的視点

田中丸さま 尾道造酢100年続く継続する会社

因島宮地様：

富士川さま 地域貢献という取り組みであれば様々活動されている方。

→全員声掛けしましょうか。メンターは。

→メンターこそどのようなコンテストなのか明確な指標が必要なので、コンセプトをしっかりとさせないと。

## メンターは何人必要か？

10組通過予定は決まっていますが、

一組あたりメンターは1名？2名

→複数にすると意見が割れてしまう恐れあり。

## JCの人がメンターすれば良いのでは？

そのJCメンターを指導するメンターがいるというのは良いのではないかな。

期間は1ヶ月半。

毎週1回は必要になってくるだろう。

JCメンバー「いやあ、我々には時間がないですよ」

メンター候補の方が時間は惜しいのでは。それを外部の方に無償でとなるとやはり厳しい。

JCメンバーの成長の機会にもなるだろう。





### 3. 尾道体験交流会

日程：10月中旬（一泊二日予定）

目的：コンテスト参加者を対象とし、実際に尾道に来ていただき、現状の課題をセミナーや体験を通して学ぶことで、尾道についてより深く知っていただく機会の創出を目的とします。

また、コンテストに向けた共通的なアドバイスを行い、メンターとのマッチングをする機会とします。

このときと最終発表 以外には尾道に来ない、という人もいるかも。

当日スケジュール感イメージ

昼15時に集合

基調講演

座談会、懇親会

10月中旬→土日を想定

…であるとイベントの多い時期になるのでは

コロナ的にも復活してくる

交流会への参加は義務

交通費、宿泊は自己負担。食費はこちらで出します。

義務。やはり義務。

本気度を図るためにも。一度も来たことはないのに最終発表だけ、というのも防ぐのも。

アナウンス、応募の段階で、書類審査合格したら尾道体験交流会の日付も込みでアナウンス。

・6月上旬募集開始（亀田委員長 頑張り次第）

「交流会」という甘っちょろい言葉ではなく、2次審査で来ないといけません。

「キックオフ発表会」

この発表会にメンターも聴衆と参加し、マッチングの参考とする。

ならば2日目、は要りますかね？

土曜日に説明会とマッチングとして、そのまま帰るでもよし、泊まってもお好きに。

オプションとして：

翌日まちあるきをする、例：豊田さんのところを訪ねて。

スタア誕生みたいな発表して、JCメンバーが「私がメンターします」と札を上げる。

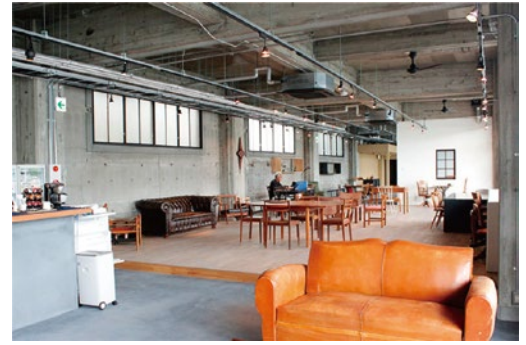
JCメンバー的にも「どうせやらなきゃいかんのなら、しっかりした奴にしたい…」と読み合いになるか。

どうしても決まらない場合はサクラを入れておいてもよからう。

10月21日土曜

13:00~18:00

場所候補：オノミチシェアはどうでしょう？



サイクリング大会…この時期はどうしてもサイクリングハイシーズン  
どこも大会があるのでレンタサイクルの利用は多くなるだろう

## 4. 審査基準・アワードについて

審査基準を5つ？ 応募要項に明示して、審査員にはそれで判断してもらう用に。

小川先生：ジャンルごとの加点制、嫌いなんだよね。通知簿みたいで。分野に分けて加点していくのは  
他のところはだめだったけど、プレゼンは良かったから といって分けして点数化すると  
たしかにこの案は点が、

なるほど。採点方法としては総合得点を比較すればよいが、アナウンスする上で

審査委員が相談して  
最優秀、審査員特別賞、など

得点の分布が  
審査員 A 100~0 点、審査員 B 80~90 点 だとしたら点数が荒れる  
分散して平準化するなど、計算方法。



- ・ 地域への貢献
- ・ 実現可能性
- ・ 社会課題重大性（着眼点）
- ・ プレゼンテーション内容・熱意
- ・ 企画力

トータル100点で。目安が欲しい審査員は各項目20点MAXで  
「プランってのは企画力だ！」とあれば企画力で30点つけるかもしれない。

## アワード

アワード3つ

「因島商工会議所賞」とかって出せますか？

協賛頂いたお金の中から

賞金総額30万円 … ビジコン的には高くない。

お金以外の部分で参加者にメリットを提示することができるか。

賞金を目当てに出場する想像がつかない。「お金以外にわたすようにしないと…と焦ることはない」

プランがブラッシュアップでき、プレイヤーと繋がれるというのは、十分な資産では。

今までJCの賞金として現金を渡したことがない。

お金を分けるということもできるのではないか。

3万円はコンテストの賞金として送り、残りは創業するときに支払われるJC基金としてプール。

5万、3万、2万円

総額10万円などでも良いのでは。



## 5. 予算・スポンサー企業プランについて

【ビジネスコンテスト HP・チラシ・SNS に掲載・会場スクリーンで企業名紹介】

一律1万円 or 5,000円（ロゴ・企業名）

※期間内に応募頂いた協賛企業様に限る

尾道市内の企業が集まれば集まるほど

「こんだけの企業があなた達のビジネスプランコンテストを期待しているんだよ」

という発破をかけることにもなるだろう。

## 6. その他

### コンテスト正式名称

尾道市後援の許可証として「ONOMICHI ビジネスコンテスト」  
という

onomichi ソーシャルビジネスコンテスト  
通称「おのコン」

---

## 7. 次回会議予定

お酒飲みながらにしませんか？

3月27日

終わったあとに、懇親会

またご連絡差し上げます。